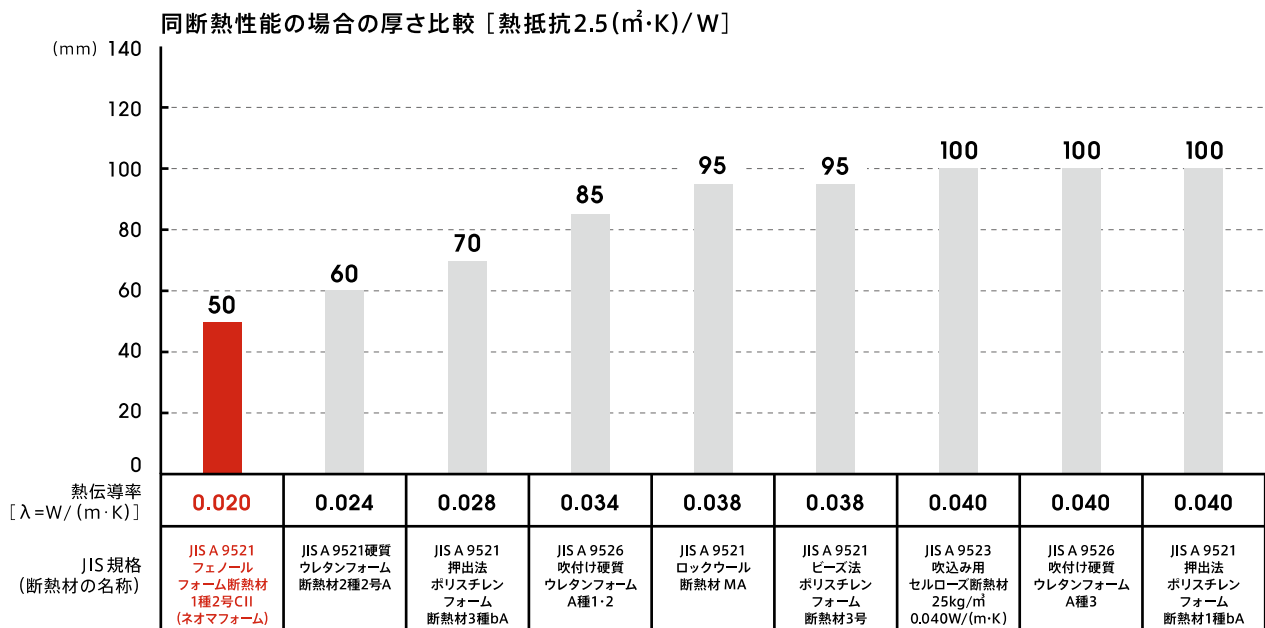


## 高断熱性能

トップレベルの断熱性能。

数値が小さいほど、断熱性能が高いことを示す熱伝導率。

ネオマフォームはトップレベルの0.020W/(m・K)で圧倒的な断熱性能。



※断熱材厚さは熱抵抗に各断熱材の熱伝導率を乗じた厚さを記載。

## 旭化成の「合成」と「発泡」技術による

「極めて小さな気泡の実現」が、高性能を可能に!

「穴や割れが少ない独立気泡の実現」が、長期性能の維持に寄与

CTスキャンによる気泡膜画像

押出法ポリスチレンフォーム



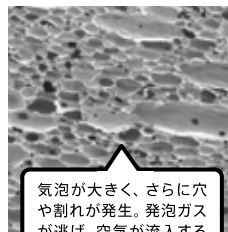
0 200 400 600 [μm]

ネオマフォーム



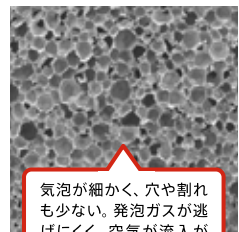
0 200 400 600 [μm]

従来のフェノールフォーム



気泡が大きく、さらに穴や割れが発生。発泡ガスが逃げ、空気が流入するので、長期性能が維持できない。

ネオマフォーム



気泡が細かく、穴や割れも少ない。発泡ガスが逃げにくく、空気が流入がほとんどないため、長期性能が維持できる。

# 2 長期断熱性能

25年平均熱伝導率 0.020W/(m·K)。

住宅・建物の高断熱化、長寿命化を促す社会背景にこたえるべく、  
ネオマフォームは、長期性能試験を実施。

経過期間(年)における平均熱伝導率の推定結果  
(厚さ50mmの製品の場合)

経過期間(年)	平均熱伝導率[W/(m·K)]
1	0.01908
5	0.01956
10	0.01989
15	0.02012
20	0.02031
25	0.02047

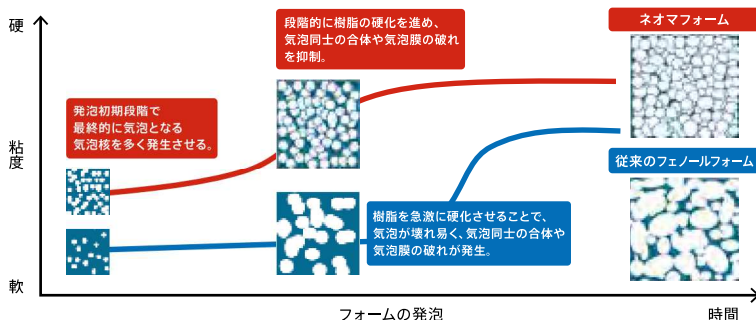
備考 1) 推定結果の数値を有効数字4桁で表示するが、4桁目は参考値である。  
2) 平均熱伝導率は、平均熱抵抗の推定結果と厚さ50mmから算出。

2014年制定のJIS「発泡プラスチック系断熱材の熱抵抗値の長期変化促進試験法」(JIS A 1486)に基づき試験を実施。(一財)建材試験センターにてネオマフォームの25年間の平均熱伝導率が2018年に報告されました。



## 高い断熱性と長期性能の秘密

発泡と硬化のタイミングを合わせることで、  
小さな気泡と高い独立気泡率を実現!



旭化成では、樹脂の合成から自社で行い、ネオマフォームを生産しています。この独自の「合成」と「発泡」技術によりネオマフォームの極めて優れた性能を実現しています。